



津山の古き良きものを次代に引き継ぐ



さき たけしげ
佐々木 建成さん

津山市出身。東京大学法学部卒業後、運輸省（現国土交通省）入省。同省地域交通局長を務めた後、日本開発銀行理事、新東京国際空港公団副総裁を経て、財団法人日本ナショナルトラスト理事長として現在に至る。

「住んでよし、訪ねてよし」の津山に

境づくりを整備することが一番大事。市民の自主性に基づくまちづくりこそが成功の秘訣です。

市長 若いセンスや

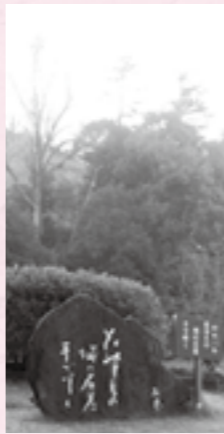
また、まちづくり活動の中でよく聞く「若者・ばか者・よそ者」という言葉があります。飛騨古川（現飛騨市）や新潟県の村上などのまちづくりの成功事例を見ると、「若者」が中心となってまちの実態を憂え、新しい発想で取り組んでいるのがほとんどだろうと思います。「ばか者」は目的を決めたらそれに向かって一心不乱にやる人間。発想の良いリーダーの後に続く「ばか者」がいらないとまちづくりは継続しないだろうと思います。

また、まちづくりには「よそ者」のように冷静に分析できる人が必要です。案外、地元の間人は地元の良さに気付かないものです。まちづくりでは「よそ者」の判断を仰ぐということが必要なのではないかと思います。行政は、市民のやる気を起こす環

西東三鬼と桜でまちづくり

八木 津山市は西東三鬼が世に出たまちということ、

「西東三鬼賞」を設けています。毎年、全国からレベルの高い作品が寄せられて、表彰式や曲水の宴を行い、定着しているように思えますが、さらに「三鬼ま



え桜がすぐに頭に浮かびますし、市民の中にも非常に明るいイメージで定着していますので、桜をイメージした民芸品が考えられないでしょ

者の協力を求めたり、マスコミに積極的に取り上げてもらうなど、津山の良さをもっと訴えるなどしていいのではないのでしょうか。

また、八木さんご提案の西東三鬼の顕彰に私も賛成です。三鬼は「父のごとき夏雲立てり津山なり」とスバリ津山を詠んでいます。「西東三鬼会館」の実現を期待しています。

津山観光名人を作っては

清水 津山は春以外の季節はどうなんでしょうか。一年中観光客が来て、市民が楽しめるまちにならなければいけません。津山には鶴山公園以外にも観光スポットはたくさんあるのですから。

花というのは観光の1つのテーマになりますね。桜の前には梅の里公園があります。桜にしても、鶴山公園だけでなく、上之町の千光寺のしだれ桜もすばらしく、尾所の桜もありますね。開花時期も少しずつずれているので、桜だけでも長い期間、観光客に来てもらえます。それから、牡丹寺や紫陽花寺。紫陽花は開花時期が長いので観光に向いています。



8月にはごんごまつりの花火大会。棧敷席を設けるといいですよ。

秋はスローライフ列車と紅葉ですね。紅葉も人気があります。スローライフ列車と山城巡りを組み合わせればおもしろいツアーになります。美作河井駅から矢筈城までは歩いて行けますね。また、布滝もすばらしいと聞いていますので、途中下車して見に行く。そう考えていくと一年中観光客を呼べて市民も楽しめます。ほかにも津山の観光スポットは40カ所以上あります。そこで津山観光名人というものを考えてみてはどうでしょうか。観光スポットをすべて回った人に、市長が津山観光名人として名人位を年に1度、授与するのです。観光名人はそれぞれ観光大使

うか。例えば、桜染めとか、桜の香りがするものとか。それこそ市民皆で考えて、運動を起こせたらいいなという夢があります。

城東地区に

もっと楽しさにぎやかさを

佐々木 津山市への観光客数は観光統計上、不明な部分もあるのですが、低迷傾向にあるのではないのでしょうか。把握されている鶴山公園を中心とした津山市の観光客数は平成18年が51万人で、備中櫓が完成した平成17年の59万人から減少しています。このような原因には3つあると思います。

第1に、鶴山公園の桜に頼り過ぎた観光であるということです。年間観光客数の40%がさくらまつりのわずか15日間に来ていると聞きました。新しい洋学資料館が完成すれば城東地区がより一体化し、津山市の重要な観光ゾーンになると期待されますが、出雲街道の雰囲気観光客にとってさらに魅力的にするにはもう少し楽しさ・にぎやかさが必要なのではないでしょうか。そのためには、イベントの期間だけでなく、通年的にまちなみの持つ歴史的・文化的価値を分かりやすく説明できるボランティアの育成が必要でしょうし、観光客がゆっくりコーヒーを飲んで休んだり、アイスクリームを食べ歩き

となつて、口コミで津山の良さを宣伝してくれると思います。今日たまたま観光センターに行つたところ、津山の造り酒屋が協力して、セツトにした日本酒「蔵綴」が販売されていました。まさに地域ぐるみというか、ライバル意識ではなく、皆で一緒に高め合つて行こうという意識が感じられました。こういう意識が観光促進には重要です。

我が愛するふるさとですから、ふるさと納税が創設されましたら必ず津山市に納税します（笑）。いづれにしても夢のある津山市になってほしいと思います。

市長 皆さんの熱い思い、アイディアが聞けてうれしく思います。まだまだ観光や文化の面で資源を活かしていかない面があることを認識いたしました。

地方には色々ハンディもあります。が、地方分権の時代において、自らハンディを乗り越える知恵を積極的に出して頑張っていかなければとあらためて感じ、たくさんの励ましをいただきました。平成21年には、津山市は市制80周年を迎えます。本日、お聞きしたご提言などをしっかりと心に刻み、さらなる市政の発展に全力で務めてまいります。本日は本当にありがとうございます。